

「第8回“本気”で語ろう会」 会議録

団体名	南部町内会連絡協議会
日時	平成26年9月26日（金）18時から19時30分まで
場所	かのや大黒グランドホテル
参加者	南部町内会連絡協議会（下仮屋 勝哉 様 外13名）
	市長、両副市長、市長公室長、市民生活部長、広報広聴課長

1 町内会事務委託料の見直し検討について

提案：どこの町内会も、個人が負担する町内会費と市からの事務委託交付金で運営されている。鹿屋市からの委託事務交付金は、文書配布世帯数×150円×12箇月分と、均等割分の2つがあり、各町内会に交付されている。

今、世帯数の多い町内会については、何とか運営できていると思うが、世帯数の少ない町内会は、転入者も少ないことから高齢化・過疎化が一段と進み、あらゆることに負担だけがのしかかっている。大始良地域を見ても町内会ごとの差があり、比較的世帯数の多い横山町内会は、町内会費が年間6,000円で、70歳になると町内会費や道路の奉仕作業等が免除される。一方で、世帯数の少ない町内会では、町内会費が年間18,000円で免除等はなく、年3回の奉仕作業等も必ず出なくてはならない町内会もある。

町内会加入率を見た場合、世帯数の少ない町内会は100%近い加入率だが、高齢化率も高く作業等も大変である。一方、世帯数の多い町内会は加入率が低く、作業内容も容易に感じる。同じ市民でありながら、不平等な気がしてならない。

国においては地方創生計画がなされているようであるが、鹿屋市においても国に先駆けて地域に光をあてていただきたい。

また、平成25・26年度に、町内会に交付していただいた町内会活動活性化推進交付金については大変助かっている。しかし、本年度で交付が終了すると聞いているので、来年度以降も何かしらの手助けをいただけるよう、よろしく願いたい。

回答：市内の152町内会の実態について、市職員や市民から話を聞く中で、町内会の規模、活動内容、町内会費、予算規模等が全く違うことに驚いた。地域によっては、一年ごとに町内会長が交代する所もあり、町内会の業務内容はだいぶ違うようである。

今後、委託事務交付金や町内会活動活性化推進交付金について、こういった形で配分していくのか、これは非常に至難の業である。小さい町内会をもっと手厚くしてほしいという意見もあれば、失礼かもしれないが、大規模町内会なのに小規模町内会と同じ扱いなのはおかしいという意見もある。この制度が平成25年度につくられ、まだ2年間しかたっていないのに色々な話が出てきている。今年度で終了する町内会活動活性化推進交付金が2,600万円という大きな金額であるが、これをいきなり来年からなくすのか、今までと同じ形で配分するのか、あるいは違う形で配分するのか、町連・市民の皆さんと話をし意見聞いていかないといけない。

また、近隣の同規模の自治体をみても、予算規模は同程度であるが、配分のしかたはそれぞれである。町内会によって活動に差があるのは事実だが、その差によって金額を決めるのもいかなものかとも思うし、大規模な町内会は 2,000 世帯ある一方で、小規模な 50 世帯未満の町内会も相当数ある。そこで、まずは合併をしてもらい、少なくとも 100 世帯以上になっていただきたい。

広報誌の配布の仕方についても難しい部分があり、交付金積算基礎となる配布数のカウントが町内会加入世帯数でなく配布世帯数となっている。小規模町内会に言わせると、大規模町内会にはアパートや集合住宅が沢山あり一気に配布できるが、小規模町内会では隣に行くにも距離があると言う。皆さんの言われることはよく分かるので、どういう形でバランスを取っていくべきなのか、町内会長さん達の意見を十分に聞かせていただきたい。

それから、コミュニティ協議会について話をさせていただきたい。これは、今、吾平と高隈でやっているが、地域の課題を大きなエリアで考えていただき、地域づくり等に対する企画・提案に対し、市が人と金を出すという仕組みを作っていきたいと考えている。それが、本地域の場合、南部町連がいいのか、大始良・高須・浜田がよいのか考える必要はあるが、町内会を超えた大きなところで、地域づくりについて地域が主体的に考えていく仕組みをつくっていただければありがたいと考えている。

提案：今の制度について、世帯数ではなく、文書の配布数に対し 150 円を出すという制度自体に不公平感があるので、それについても検討していただきたい。

## 2 小動物園の霧島ヶ丘公園への移設について

提案：現在の小動物園は、昭和 52 年に設立され、今 150 匹程の小動物がいるようで、主な来場は、保育園や幼稚園の遠足等である。ただ、中央公園の駐車場に車を止めてから小動物園まで歩くとすると相当の距離があり、高齢者が言われるには孫を連れて行くにも遠いと感じているようだ。

一方で、鹿屋市にはバラ園があるが、バラの季節は基本的に春と秋なので、ここに小動物園を持ってくれば年間を通じて良いのではないかと考えている。小動物園は、今の場所に 30 年以上設置されているわけだが、周りの人に聞いても行ったことはないと言うし、人によっては、どこに動物園があるのかも知らない方もいる。ぜひ、バラ園に小動物園を作っていただくよう提案する。

回答：駐車場から小動物園に歩いていくと、小林ホテルの上にある「虹の架け橋」を渡り、小動物園にたどり着く。現在の利用者は、話のあったとおり、保育園や幼稚園、小学生などが主であり、年間 2 万人ほどが来場しているようで、一定の入場者数の確保はできていると考えている。一方で、設置されてから 37 年が経過し、施設が老朽化しているので、時期を見て、今後の取扱等を検討しないといけない。

また、バラ園を中心とした霧島ヶ丘公園については、昔はアスリートヒル構想

など大きな構想があったが、今はバラ園と時々イベントでの利用となっている。ここには茶室やバンガローなど色々な施設があるが、あまり利用されていない施設もあるので、民間活用をしながらバラ園の再構築をするよう指示しており、その一つとして小動物園をバラ園に移設することも、あり得るのではないかと考えている。

小動物園の移設となると、現在の場所でも一定の利用があることや、衛生上・防疫等の問題も考える必要がある。私としては、小動物園は、霧島ヶ丘公園を今後活性化させる施設の一つになるかもしれないと考えている。様々な状況もあるので、もうしばらく検討の時間をいただきたい。

### 3 西俣地区の活性化について（西俣小学校の存続・今後の星塚敬愛園のあり方）

提案：統廃合問題が出てきてから校区あげての署名活動等を実施してきたが、現在は、西俣小学校は統廃合から外れているという話を聞いている。しかし、この話が出てから西俣地区に家を建てず、大始良に建てる人が増えてきた。本当に西俣小学校が統廃合から外れているのであれば、市の広報誌やHP等で公にして、市民の皆さんに情報を出していただきたい。

また、星塚敬愛園については、8月27日現在で168名の方がいらっしゃる。昔から敬愛園のあり方について話がなされてきたが、この広大な敷地を将来どう活用していくか考えないといけない。ここに障害者福祉施設が来るなどの話もあるが、今の施設を生かして雇用が発生するような企業等を誘致していただければと考えている。そうすれば、西俣小も児童が増えるので、この2点について検討していただきたい。

回答：西俣小の統廃合については、当初、市の学校統廃合実施計画の中に入っていたが、地元との協議の中で地元の色々な思いもあり、最終的な平成23年6月の実施計画において、西俣小は対象外となった。現在90名程度の生徒数だが、廃校になる高須中で29人。浜田小が15人。それからすると生徒数も多く複式学級編制でもないので、現在の学校再編の実施計画には入っていない。ただし、今後、未来永劫とは言い切れない部分もあるので、そこは私どもや地元の皆さんの努力にかかってくると思っている。また、西俣小が実施計画に入っていないことについては、平成23年7月の広報かのやにて周知し、市のHPにも載せてある。

なお、教育委員会においても、地元等での説明の要望があれば、いつでも対応する。

提案：西俣小の学校再編の状況について、校区の人たちは知っていても、外部から来る人は分からないので、広報かのや等に載せていただきたい。

回答：今の時点で西俣小だけ広報誌に掲載するのは奇異な感じがするし、高隈など現在協議中のところもある。我々も機会があれば色々なところで話をしていくの

で、ご理解いただきたい。

次に、星塚敬愛園について、色々な動きが一部であるようだが、今後活用の方針や公募など、一定の手続きを含めて動いていくのではないかと考えている。

現在も施設内の広場等については、グラウンドゴルフ等で地域の皆様も使用されていると思うが、企業の誘致については、基本的には敬愛園あるいは自治会の意向が大切であるため、市が率先して実施していくことは難しい。ただ、自治会の会長さんとも話をしたが、この施設を将来どう活用するかは大きな課題なので、敬愛園の職員や自治会の皆さんともじっくり話し合いをしながら対応したい。また、敬愛園は地元を大切にしているので、色々な利用で要望があれば話をさせていただきたいし、我々が応援できるところは協力していきたい。

提案：西俣小の統廃合については、当時、大始良に統合して西俣小がなくなるということで、急な話でびっくりした。アンケートを取ったところ9割の回答があり、統廃合に賛成の方は7%しかいなかった。

計画の中で、西俣小については平成28年度までは存続すると言っているが、その後は、生徒数の推移を見ながら検討するとなっている。ここの部分が引っかかるので、当時、この文言を削除してほしいと要望した。今の状況では、廃校が2～3年先送りされただけではないかとも思える。

お願いしたいのは、統廃合計画のない元の姿に戻してほしいことであり、そのことを市民に示してほしい。そうしないと、若い人たちが西俣に家を作ろうとせず、地域にとっては死活問題である。小規模校から大規模校になるメリットだけでなく、地域の活性化等をとらえた統廃合計画を十分に考えてほしい。

回答：再編について、一つは学校の規模を考えないといけないことは仕方がないと思っているが、もう一つ大事なのは、地域の皆様のご理解とご協力であり、地域の活性化のために学校が必要なことは十分認識をしている。

西俣小については、極端に生徒数が減っていかないのではとの予測もあり、どうなるか言い切れないが、生徒数の推移を見させていただきながら、地域の皆さんとしっかりお話をさせていただきたいと考えているので、よろしく願いしたい。

#### 4 市道460号（池園上橋206）橋の視距改良（角切り）について。

提案：県道鹿屋吾平高山線を起点として、鹿屋市外へ通じる獅子目・南地区からの幹線道路は全て改良済であるが、当区間の橋梁25mを含め75m間は未改良である。この区間の前後は5.5mから6mの幅員で、4トン車などの大型車両が徐行すれば離合できるが、当区間のみ4mなので離合は難しい。更に、ここは通学路であり、中学生は全員自転車通学で大変危険な所でもある。

また、変則の三差路となっており、カーブの所が道路側にはみ出している関係で、事故が頻繁に起こっている。先般も獅子目の方と南の方が衝突事故を起こし、救急車で搬送されている。私は平成21年度から再三要望している。視距改良の方

は 200 万円から 300 万円の予算があれば済むと考えているが、現在、それ以上の被害が出ていると思っている。橋梁は、昭和 45 年に大始良川の改修に合わせて架け替えられているが、当時の幅員が 4 m だったので、そのままの 4 m で架け替えられた。年月もたっており、耐震工事もされていなので、橋梁の拡幅と視距改良を併せてお願いしたい。

回答：この問題については、平成 21 年度と平成 23 年度の 2 回、池園町内会から要望が出されている。視距改良ということで、今年は高いブロック塀のある所の用地測量費と土地購入費を組んでおり、今年中に買収をさせていただきたいと思っている。具体的な拡幅整備と橋の高欄の取替については、来年度の当初予算で計上することで今検討しているので、しばらくお待ちいただきたい。

## 5 県道 540 号（田淵・田崎線）の排水対策について

提案：県道 540 号の西村動物病院から大始良出張所までの排水対策についてお願いしたい。この件については長年スクールゾーン委員会などでお願いをしてきた。県並びに市の担当者の答えは、肝属中部畑かん事業において、必ず排水路の整備を行いますというものであったが、今年の畑かん推進会議の時に、県の担当者に話をしたところ、県道から東側は畑総第二鹿屋地区で排水路を整備するとの説明であった。

その後、市議を通じて市の担当部署にお願いをしたところ、対策は講じているということであったが、大雨が降ると想像を越すような水が溜まって大変な状態になるので、市の方でも更に対策をとってほしい。

回答：今日、西村動物病院から市の出張所まで歩いて見させていただいた。県の管理道路ということで、県にお願いをしていかないといけないが、大始良出張所長からも大雨が降れば冠水するという話を聞いたところである。県の道路管理者に聞いたところ、スクールゾーン委員会からも側溝を入れてほしいという要望が出されているということで、車道内の雨水がスムーズに流れるような道路際の穴の数や大きさを含め、検討し対応したいとのことであった。

更に、宅地から車道へ雨水が流れてくるところもあるので、そういうところのグレーチングの位置や数についても、設置をする方向で対応予定とのこと、まずそれらの対策をやっていききたいと、大隅地域振興局からは聞いている。

提案：以前は、真光寺の前から横山土地改良区の排水路の方へ大きな流末を畑かんの工事に併せ作るということであった。大始良小学校前の側溝自体が小さくて溢れるので、将来的には横山土地改良区の方へもう一本流すような、大きな側溝を通すようにしていただくといいのだが。

回答：それは鹿屋市街地から見ると、右から左に横断させるということか。

提案：畑かんの工事の際に左側の方に大きな側溝を通すという話が、当時の県の答えであったが、実際に確認するとそんな話しは聞いていないということであった。

回答：県へ問い合わせ、確認してみたい。

(県回答：横山原の流末は40年代にシラス対策事業で整備された排水路のため、新たに流域を変更(追加)することは困難と考えられる。このため、県道から西側の排水対策は、今後シラス対策事業等導入が可能か検討したい。)

## 6 霧島ヶ丘公園へ繋がる道路の開放について

提案：道路建設の経過については、平成3年だったと思うが、当時の蒲牟田市長が現場に出向いて、ばら公園への南からの入り口として、瀬筒の峠から公園を通じて横山へ抜ける道路を造り、中ほどには駐車場を造ると説明をされた。その後、当時の山下市長も現場に町内会長を集め、ここからこうなるのでと具体的な説明をされて造られた道路である。先ほど中西市長が言われた、霧島ヶ丘のアスリートヒル構想もあり、横山に抜ける道路として造られた経緯であった。

しかし、道路が完成すると、バラの盗掘などがあるということで開放してもらえなかった。県道の永吉高須線からの利用者を含め、できれば横山に通じる道路として、開放を検討していただきたい。

回答：私の聞いている限りでは、道路が造られた当初からこれまで開放されていない。また、この道路の位置付けとしては、公園内の幹線の園路として整備をされ、一般道路としての開放は想定していないと聞いているところである。開放するにしても、公園利用者の安全性や制限時速が20キロということで、いろいろな制約があると思う。また、この道路が、地域の方々が使用することで利便性が高まる生活道路なのか、南からの公園利用者のための道路なのか考える必要があり、私としてはあくまでも園内の道路だというイメージがある。道路の位置付けがどうなっているのかももう一度確認したいと思う。

ただ、大始良の方から来た時に、この道路があればいいなというのは個人的には感じている。幅員がセンターラインも引ける5.5m位あり、一部草刈りなど手直しをする必要があるが、それほど大きな工事費がかかるとは思っていないので、今後いろいろ検討をしていきたい。

なお、霧島ヶ丘公園は当初の計画からするとまだ開発すべきところがあり、今のところストップしているが、今後、民間活用による霧島ヶ丘公園の大きな絵を描く中で、もう一回この道路が生きてくるという可能性もある。バラのシーズンなど公園利用者のために、一時期でも使用する暫定使用なども含め検討していきたい。

提案：それに付随して、浜田から霧島ヶ丘公園の方へ上がる道路に、以前、全町内会で植樹をしたところがあるが、その上が駐車場になっている。そこはいつも鎖がしてあり、車が行けないようになっている。

回答：今度、現地周辺を歩いて確認してみたい。

市長総括：私も獅子目には何回も行っており、横尾岳の下もいいところだと思っている。福留小牧場もあるので、清水会長さんからアイデアを出していただきたい。

それから海岸線について、高須にウミガメの保護施設を作る計画がある。先日、ウミガメの放流会にも行き感激したところであるが、昔からすると砂浜が痩せ細って寂しいと思った。浜田の松林という素晴らしいものもあるので、もう一度海岸の利用について考えていきたい。

また、高須、浜田は学校の廃校もあり寂しくなってしまうので、今のうちに地域の皆さんと知恵を出し合って跡地の利用についても検討していきたい。

提案：横尾岳は素晴らしいところだが、全く手がつけられない状況である。緑の少年団で、15～16年前から公園近くの林道に300mくらいアジサイを植えて、アジサイ道路ということで取り組んでいる。今年の7月の19日に緑の少年団と一緒に公園の藪払い等をするが、景観もすばらしいので、横尾岳も一度歩いていただきたい。